

「事例に**乗るか**、事例に**なるか**。  
たった一文字の**違いは**とてつもなく**大きい**。」

## デジタルでムーブメントを興し フィジカルにつなぐ

「38県138団体が参加したオンライン移住フェア」

2020年7月28日 2020年度第1回(通算141回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー【講師】 LOCONNECT 合同会社 代表 (総務省地域創造アドバイザー) 泉谷 勝敏 氏(山口県周防大島町)を開催しました。



泉谷勝敏(いずたに かつとし)さんは、大阪府堺市 出身。ファイナンシャルプランナー (AFP)、二級ファイナンシャルプランニング技能士、住宅ローンアドバイザー、生命保険協会ライフコンサルタント、証券外務員二種の資格を有し、周防大島町定住促進協議会(ふるさとライフプロデューサー)と努めながら、総務省の地域力創造アドバイザーに任命されています。

「お金に振り回されないためには、お金の知識を身につけるのが一番。」と考えて、2000 年に金融業界に就職。昇格するごとに全国トップ表彰を受け、入社3年目に新規部門のチームリーダーに抜擢された際は、わずか3カ月でチームを全国 1 位になりました。

しかし仕事の成功と反比例するように時間に追われ「自分の求めた理想の暮らしって何だろう」と考えるようになり退職して、2007 年、奥さんの故郷である周防大島へ移住しました。

移住後は、培った金融の知識を活かすために、広島市内の保険会社に勤務。しかし、本当に「顧客第一主義」を実現するならば企業にはいけないという長年の思いが強まり、2009年ファイナンシャルプランナー(FP)として独立しました。2012年からは、ふるさとライフプロデューサー(FP)として周防大島町定住促進協議会において、移住相談対応と企画立案をしています。また、2017 年から総務省地域力創造アドバイザーに任命され、全国各地で活動しています。



- 大阪の堺市出身です。
- 2000年、証券会社で勤務(優秀だった)。
- 2007年、周防大島に移住しました。
- 2009年、ファイナンシャルプランナーとして起業
- 2012年、定住促進協議会発足から参加。

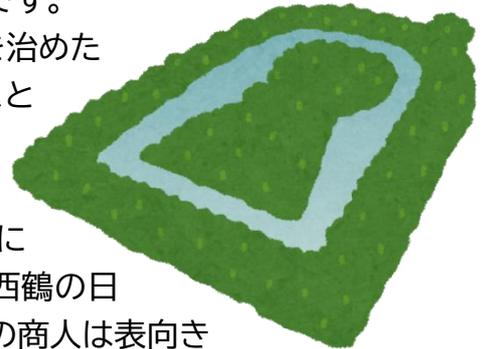
©LOCONNECT,LLC

泉谷 勝敏さんの故郷の大阪堺市は、かつて仁徳天皇陵と言われた大仙陵古墳などの世界遺産として登録が決定した「百舌鳥・古市古墳群」があるところです。

また、戦国時代は鉄砲の製造や商人の代表である会合衆が町を治めたことで有名な商人の町として栄え、遠く欧州まで東洋のベニスとして知られていました。泉谷さんは「いずみたに」と呼ばず「いずたに」と呼ぶのも堺市の特徴です。

堺市は、大阪市に隣接していますが、奈良から流れる大和川により境をもち、文化が変わるそうです。江戸時代の作家 井原西鶴の日本永代蔵には、大阪の商人は、派手で刹那的な面があるが、堺の商人は表向き質素で堅実としています。

江戸時代に入ると徳川幕府が大阪市を商業の中心にし、大和川の河川の流れを変更したことなどにより、堺港の海底に土砂が積もり海運商業の中心の座が堺から大阪に変わりました。



現在の住処である山口県の周防大島町は、かつては本土とは離れた離島でしたが、現在橋が架けられ交通の便が良くなりました。民俗学者の宮本常一翁の生まれたところとして知られています。2004年(平成16年)10月1日に東和町、久賀町、大島町、橘町と合併して周防大島町となりました。



「百舌鳥・古市古墳群」も奈良にあったヤマト王権が中国などの外国の外交関係者や西国の生産物を奈良の都に輸送する経路として瀬戸内海から堺を経路して人の往来があったと考えられています。



今回のセミナーでは、そんな古代からの通商の歴史を彷彿される現代の優れた「商人」として泉谷 勝敏さん先見性を全国移住フェアのオンライン開催というピンチをチャンスに変える取り組みを通して、人の行き来が制限される時代にどう取り組んでいけば良いのかヒントを提供していただきました。

山口県 周防大島町定住促進協議会の泉谷勝敏さんは、大阪府から移住し、「島時々半島ツアー」と名付けたお試し暮らしツアー等、ふるさとライフプロデューサーとして大活躍中ですが、

このツアーも良くある田舎の体験ができるツアーとは、全くコンセプトが異なり、「町の医療機関の説明と移住後のマネー(生活設計)講座」が中心です。

泉谷 勝敏さんがファイナンシャルプランナーだから生活設計のアドバイスができると優位性がありますが、夢だけで自然あふれた田舎で暮らすのではなく、リアルな生活がどうできるか、をベースに体験ツアーや無料相談に答えています。

この成果が2020年1月現在、21回開催225名参加、32組67名移住。実績3割の成果を上げており、こうした下地の上に、今年の5月に大阪で開催を予定していた全国移住フェアが新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で開催が中止となった大ピンチに、そんな時に、再び地方移住を考える人が増加する機運のなかで、今できることをやりましょう！と出展料を取らずに、オンラインアプリによる全国移住を企画し呼びかけ、全国38道府県・138団体の市町村等がオンライン出展参加し、相談者も全国から173名が参加し大いに盛り上がり、既に群馬県に一人移住者が出たと成果を話してくれました。

オンラインやZOOMをやれば良いというのではなく、何のためにやるのか？

テレワーク、サテライトオフィスのみならず、インターネットやデジタル技術を利用して農山漁村への交流や移住などフィジカル(物理的な移動等)に結び付ける試みが始まっています。

講演で上映した動画は、2015年、総務省が運営する「全国移住ナビ」というサイトにおいて、移住PRの動画を各自治体が制作し、それをサイトに訪れた移住希望者が評価するコンテストが開催することになり、動画の制作費に関しては、総務省から上限500万円の補助が出ましたので、各自治体は、東京の広告代理店やテレビ局に制作を依頼しましたが、泉谷 勝敏さんは、町の行政番組作りをしていた青年と二人で制作したいと町に申出、制作しました。

動画制作のプロではない自分達が作ったのは、定住促進に関しては私の方がプロですし、何よりも地方のことは我々の方がプロであり、私自身が移住者なので、移住希望者の気持ちも理解できること。

また、動画の内容は、ありがちな町のPRを一際せず、とある一日の都会と地方の暮らしを時系列で対比させました。この動画

総務大臣賞、もらいました。



を携えて移住相談会に行き、相談者に視聴してもらおうと、みなさんが「私の実家のある〇〇を思い出しました。」とふるさとのことを語り出します。

動画の名前は、'周防大島町 PR 動画' でなく、'地方創生動画「回帰」' と名付けました。都会と地方の暮らし、どちらが良いというわけではなく、今の暮らしを見つめ直し、ふるさとに思いを馳せてもらえればとの願いを込めました。

当時の地方創生担当大臣が  
TVで褒めてくれました。



この'地方創生動画「回帰」'は視聴者投票の結果1位となり、総務大臣賞を受賞しました。

1位となって最も良かったことは、全国の地方で暮らす子ども達に「地方で暮らしていても、大きな会社で働かなくても日本一になれるんだよ」と教えられたことです。これは自主制作した私たちしか言えないことです。島の小～中学校、高校に毎年この話をさせていただきます

すが、子ども達が島に誇りを持ち始めています。また、地域づくりを学ぶ全国の大学の学部でも題材として頻繁に使っていただいています。ちなみこの動画は70万円という低予算で制作しました。

2016年から国際基督教大学 劇団虹団が、小学校を中心に公演に訪れているなど、新たな動きも紹介していただきました。



セミナーの後半では、自ら考えて企画アイデアを出す方法を指導いただきました。



さいごに

- 10月4日に第2回オンライン全国移住フェアを開催します！
- 個人的にはリモートワークの先を見えています。



©LOCONNECT.LLC

今回のセミナーでは、現代に生きる商人は、商機を逃さず行動を移す、そのためには、お金だけでない志が多くの人を引き付けるのだと大いに勉強になりました。

商売の神様(松下幸之助翁)も「とにかく、考えてみることであり。工夫してみることであり。そして、やってみることであり。失敗すればやり直せばいい」と言っています。

講師の泉谷 勝敏さん、本セミナーにご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

今後、開催セミナーの講義録画配信サービスを検討(サービス内容等未定)しています。